

# 夏季教頭研修会実施報告

- 1 期 日：平成30年8月7日（火） 13：30～
- 2 場 所：津市河芸中央公民館
- 3 内 容

会長挨拶、調査部長挨拶の後、2名の講師さんによるお話がありました。会長からは、全国大会について、調査部長からは、調査結果から考えられる課題等を盛り込んだ挨拶でした。

## <前半>

講師：三重県教育委員会福利・給与課 小中学校給与班

主査 池田 元哉 さん

演題：「給与全般について」

初任給、昇格、昇給、退職手当など給与制度の基礎知識をわかり易く説明していただきました。その後、給与条例より支給手当・扶養手当等様々な諸手当の概要について述べられました。

## <後半>

講師：文部科学省CSマイスター

松阪市立第四小学校運営協議会理事長

鈴木 逸郎 さん

演題：「地域とともにある学校づくり」

～コミュニティ・スクールについて～

前半はコミュニティ・スクールの概要と必要性について、後半は鎌田中学校区の取り組みを中心に、具体的に説明していただきました。住民協議会と学校が連携・協働する中で出来る人が出来るときに、無理せず、みんなが地域の子どもを育てていこうという取組は、これからコミュニティ・スクールづくりを目指す学校にとっても、すでに取り組んでいる学校にとっても、大変参考になるお話でした。

## アンケートの抜粋

### <前半>

- とても分かりやすいお話で、給与について不明な点が明らかになってよかったです。資料もわかりやすく、日常業務に役立つものであり、ありがたいです。(多数)
- 御講義の中にもありましたように、来年度は服務について学ばせていただきたいと思います。(多数)
- 退職金について教えてもらえる場が今までもあまりなかったので、とても参考になりました。自分の年齢で計算してみたいです。(多数)

- 手当など、わかりにくい点を説明していただき、よかったです。
- なかなか勉強することのないテーマだったので良かったです。ただ、もっとゆっくと話してもらえるとよりありがたかったと思いました。
- これまで明細も見たことがなかったが、今日のお話で、給与の算出方法が少しわかりました。ありがとうございました。
- 知っているようで、実はキチンと説明を受けたことがなかったことでした。わかりやすく、ピンポイントでよかったです。若い頃、中堅の頃、管理職の時、折々に聞くべきことかなと感じました。
- どのような時にどのような手当がつくのか、教員へ広げていきたいと思いました。
- いままでほとんど耳にしたことのなかったことでしたが、知らないままではいけない、と思わせてもらいました。
- 冒頭でおっしゃった通り、事務系の事は2の次3の次になってしまっていました。今も事務の方にお任せ状態できちんとしたことがわからないまま、この何か月かを過ごしてきましたので、今日のような機会をいただくことはとてもありがたかったです。
- 台風の手当では知らなかったので良かったです。
- 同一週の振替の意味が初めて分かりました。
- 退職までまた頑張ろうという気になりました。
- 教師の仕事というのは、「善意」で語られることが多いですが、そうばかりではなく、「仕事」に対しての「手当」ということを知ることは大切なんだと感じました。今は、様々な勤務のあり方があり、給与を始め制度を知ることは、職場づくりには欠かせないことだと思いました。
- 話を聞く前はあまり必要ない話かと思ったのですが、知らないことも多く、とても役に立つ話でした。もう少し詳しい話をしてもらっても良かったと思いました。
- 出してもらえる手当については請求できるようにしていきたいです。
- 給与は決定の原則が基本として、公平に定められていることがよくわかりました。ただ、実態として勤務時間が長くなり、過重労働が見られます。この分は給与に反映されません。教員の働き方改革・職務の効率化を真剣に考えていく必要性を強く感じます。

## <後半>

- 大変興味深く自校でも生かしていきたいと思いながら聞かせていただきました。(多数)
- 具体的なCSのあり方を丁寧に話していただき、よく分かりました。(多数)
- 「開かれた学校づくり」と言われながら、なかなか進められないことが多いのですが、具体的な取組を紹介していただき、参考とさせていただきたいです。(複数)
- 教えていただいたことを自校で生かしていけると思います。(複数)
- 学校と地域がwin-winの(みんながメリットがある)関係にしていくことが必要であることが分かりました。(複数)
- 本校もCSです。地域の方のご支援は、日ごろから強く感じているので、CSの重要性はとても理解できます。学校の教頭の立場だけでなく、地域住民としても学校を核としたコミュニティーづくりに取り組みたいと思います。
- 本校は比較的CSが整っていると思います。しかし、他校のCSの取組のお話は非常に参考になりました。むりをせず、持続できるCSがとても大切ですね。

- CS を実施し、学力が向上している様子がわかり、子どもたちが落ち着くということを知り、効果がよく分かりました。取組のアイデアが素晴らしいです。鈴木先生の熱い思いが活力となりました。ありがとうございました。CS の必要性がよく分かりました。
- 地域とともに子どもと大人と一緒に育つという素晴らしい構想を教えてくださいました。なるほど！と思うことばかりでした。ありがとうございました。
- よく似た事業で子ども支援ネットワークづくりに関わったことがあります。どこか学校が進めてしまっているところがあって、地域・保護者・学校の三者での取組の難しさを感じるところがありました。今日のお話で人材を選ぶ話をしていただき、勉強になりました。また、「小中一貫と CS づくりについてもそのような形ができていくといいな。」と思いながら、話を聴かせていただきました。
- 安全見守り隊や行事の駐車場支援、読み聞かせ、事業補助などは、自分の学校でもしていることなので、このようなことから組織的にできるのかなと思いました。
- 本校では、学校運営協議会が組織されており、様々な活動が学校と連携して進められています。登下校の安全確保や校内の環境整備、外国籍児童への学習支援など、地域の方々や学校との関係は切っても切れないものになっています。このような結びつきを大切にしながら、学校経営を進めていきたいという思いが改めて強くなりました。
- 運営を進めていく上で、学校運営協議会の人選から大切であることがよく分かりました。
- 「教頭の業務や職員の仕事が増えて困るのでは・・・」という意識があります。鈴木さんのご講演の中にありました「無理に取組をやり過ぎない」「学校が地域にお願いしている行事等を制度化、仕組み作りをしていくという考え方」「学校に協力的な方を委員としていく」のであればそれほど負担にならないのかなと感じました。自分の学校なら補習学習やドリル学習での丸付けや補助をしてもらえる方（個人情報守秘義務を理解し協力してもらえる方）がいたらとても助かると思います。また、図書館の環境づくりや学校の環境整備をしてもらえる方、校舎内を施錠して回してもらえる方などがあればありがたいと思いました。学校サポート隊のような感じで考えればいいのかと思いました。
- 今ある仕組みを使って本校でも将来進めていきたいと思いました。
- 教頭としては、こういう活動に報告書等の仕事はどのくらいあるのか知りたい所でした。
- 地域と学校・保護者が三身一体となって今後活動していくことが必要と感じました。CS のメリットや魅力をしっかり検証し、取り組んでいきたいと思います。
- 仕掛けるのは大変ですが、いろいろな人と連携する中で、このような素晴らしい活動になるのだなあと驚きました。
- 「学校や先生が多忙になるようなコミュニティ・スクールならやめた方がよい」というお言葉、安心しました。
- 本校でも、地域の方が積極的に子どもに働きかけてもらっているが、なかなかそれが学校との協働とはならなかったように感じてました。学校と地域がともに活動するための参考となりました。
- 子どもが将来もその地域で暮らしていく、そんな学校づくり・地域づくりがとても参考になりました。
- 「地方創生」という視点はこれまでなかったので勉強になりました。
- 小・中の校区で一体となって CS をやっているのですごくいいと思いました。
- 「地域へ開かなければ学校はもたない。」という言葉が印象的でした。「子どもを育む」をキーワードに学校と地域が連携する仕組みを作ることの成果、効果を感じます。
- 持続的な社会総がかりの目標・ビジョンを共有した「協働」活動を行うとともに、保護者や地域の

方々の声を生かしながら、地域資源(ヒト・モノ・コト)を効率的に組み合わせながら、教育活動の質を高めていきたいです。

- 来年度からスタートします。とても興味深く聞かせていただきました。
- 地域 CS の人選は難しく、CS がうまく回っていくには肝になる人が重要。鈴木先生のような方が理事長でしたら、すごく推進すると思います。
- 今後学校だけで子どもの教育ができる時代ではないことは十分予想され、CS の大切さ、必要性を実感しています。(私自身鈴鹿市勤務なので学校運営協議会は設置されています)ただ、一番の課題は、学校と地域の連携を進めるための体制が確立されていないこと、学校の担当教員・地域側のコーディネーターの位置づけです。本校は担当教職員不在、コーディネーターも形式的です。その点について改善しようと思っていますが、教員に負担感を与え、難しい面もあります。現在はこの役割は教頭が行っています。特に何か新しいことを行うのではなく、『今までやってきたことを制度化する。仕組みとして行う。』という言葉は、すっきり納得します。
- 「学校は多忙である。教職員が主導して新たに立ち上げるのは難しい。他力本願になるが鈴木様のような方がいてくれるとありがたい。」というのが本音としての感想です。生き生き活動している子どもたちと地域の方々の姿が素敵でした。
- 地域によって温度差もあるので、どう手掛かりを付けていくかが重要になってきます。学校だけで頑張るのではなく、鈴木先生のような人が地域の中に必要だと思います。
- 丁寧な説明でスライドがよく分かりました。
- 後半の実践についての話は大変参考になりました。
  
- もう少し具体的にどのように運営しているか知りたかったです。教頭がコーディネーターになってしまわないか心配です。そういう役ができる地域の人が見つかるかどうかの方が大事だと思います。
- PTA との重なりや活用あるいは、縮小も考えた方がいいのでしょうか。
- CSの取組をしている学校に話を聞くと、夜に会議があり、担当者と教頭は仕事が増えると聞いたことがあります。担当者が学級担任をしていると大変だと思うので、担当者を誰にするのか、どういう人がしているのか知りたいと思いました。
- 学校側の立場でのお話が聞けると良かったです。
- 会議は誰が参加しているのか、月何回会議はあるのか、そのことで担当教員の負担にならないかを聞きたかったです。
- 主となって動いてくれる地域リーダーが大切です。その人を見つけるのが大変で、学校主体で管理職や教員の負担は大きくなるのでは？
  
- 鈴木先生(元三教組委員長)元気に活動されているようで良かったです。
- 鈴木先生のお人柄がよく現れていてすてきなご講演でした。